7月 えんだより

令和７年６年３０日
サン・ベビールーム

今年は雨の少ない梅雨になりそうですね。それでもうさぎ組・きりん組のお子さんはカッパを着て、水たまりや雨音などを発見するなど、雨の日散歩を楽しみました。これから夏の暑さがやってきます。こまめな水分補給や休息をとり、元気に過ごせるよう留意してまいります。

７月のスケジュールのお知らせ

１（火）～２（水）　駒沢中学校生徒の職業体験
７（月）　七夕笹配り（お迎え時）
15(火)　水遊び開始予定
17(木)10:30～　不審者対応避難訓練、消火訓練
18(金)18:30～　職員研修
24(木)14:30～　ひよこ組健診

８月のスケジュールのお知らせ

５（火）～９（土）　育児体験
12(火)～16(土)　夏休み調整期間
16(土)　避難訓練
21(木)14:45～　ひよこ健診
22(金)18:15～　職員ミーティング・園内研修
26(火)～30(土)　育児体験

クラス別「７月のねらい」

ひよこ組
- こまめに水分補給をし休息の時間も調整することで健康に過ごせるようにする。
- 水遊びや沐浴を通して水に触れて遊ぶことを楽しむ。

うさぎ組
- 身体を清潔にして、気持ちよく過ごせるようにする。
- 身の回りのことに興味を持つ。

きりん組
- 夏季の保健衛生に留意し、快適に過ごせるようにする。
- 保育者や友だちと一緒に、夏の遊びを楽しむ。

職員研修

日々成長するお子さんたちと共に、職員もまた成長していけるよう研修や勉強会を開催し、研鑽を重ねています。

7/18(金)は講師の先生を呼んでの勉強会を行います。可能でしたらお迎え時間のご協力をお願いいたします。

水あそび

梅雨明け頃から園庭にて、きりん組は大きなプール、うさぎ組＆ひよこ組はタライ等で水あそびを楽しみます。

◆ 詳細は別紙にてお知らせします。
◆ お部屋に入る前に沐浴やシャワーで体を温めます。

雨の日散歩、土・泥遊び

カッパや長靴、汚れて良い服のご用意など、ご協力いただきありがとうございます。

少しであったりダイナミックであったりそれぞれの楽しみ方で雨や土に触れていました。

日中の活動について

熱中症対策として、こまめな水分補給の他、暑さが厳しい日は戸外にいる時間を短くしたりお散歩先を工夫したり、状況に応じてお散歩に行かず園庭で水遊びをする日があったりしますことを予めご承知おきください。

登園時、口の中を空っぽに

近年、命の危険に直結する窒息事故発生の周知連絡が多くなりました。家で食べたものが口の中に入ったままの登園や動いているベビーカーの中での飲食は窒息事故に繋がりますし、こぼれた欠片でお友だちや保護者の方がアレルギー症状を起こす危険性も考えられます。お子さん自身と他の方の安全のために、朝ごはんはお家で食べて、口の中に何もないことを確認してから登園していただけますようお願いします。

7月生まれのおともだち

～熱中症についての知識をつけて、元気に夏を過ごしましょう～

　これからの時期、赤ちゃんからご高齢の方まで、室内・屋外を問わず熱中症が起こりやすくなります。この熱中症対策、朝の過ごし方が大きなカギを握っていることはご存じでしょうか？
「乳幼児　熱中症」で検索するとたくさんのページがあります。他にも情報を集めてみましたので、ご参考になさってください。

熱中症は午前中に多い？
予防のカギは「朝ごはん」
国立病院機構
西別府病院
医学センター長
松田貴雄氏

熱中症ゼロへ
熱中症について学ぼう
一般財団法人 日本気象協会
【監修】
帝京大学医学部教授
帝京大学医学部付属病院
高度救命救急センター長
日本救急医学会評議員・専門医・指導医
熱中症に関する委員会委員 三宅康史氏

厚生労働省

熱中症を防ぐために知っておきたいこと
熱中症予防のための情報・資料サイト

◎子どもの熱中症の特徴

◎ 子どもの体は、大人より暑さに弱い
　乳幼児は大人と比べて体温調節機能が未熟な状態。特に汗をかく機能は今まさに発達している段階にあるため、体内に熱がこもりやすく、体温が上がりやすいという特徴が。また、体の表面温度より気温が高くなると熱を逃がすことができなくなるばかりか、周りの熱を吸収してしまうおそれもあります。子どもが平気そうにしていても、大人よりも暑さに弱いということを意識していきましょう。

◎ 子どもは自分で予防ができない
　乳幼児は自分で水分を補給したり服を脱いだりするなどの暑さ対策ができません。また、暑いということを忘れる程に遊びに熱中するのも子どもならではの姿ですよね。子どもの熱中症対策には適切な大人の手当が必要です。早め早めの水分＆塩分補給や衣服の着脱を心がけ、暑い場所を避けるなど、お子さんを熱中症から守りましょう。

◎ 子どもは照り返しの影響を受けやすい
　子どもは大人よりも身長が低いことから体が地面からとても近く、戸外においては照り返しや地表温度の影響を強く受け、大人の顔の高さで気温が３２度の時、子どもの顔の高さでは３５度くらいともいわれています。戸外で過ごす際には暑い時間帯を避け日陰を意識する、ベビーカー使用時は日除けを用いると共にベビーカー内部が高温になっていないかを時々確認しましょう。